

3 総合評価と評価理由

総合評価	評価理由
b	成果指標の達成率を基にした定量的評価は3.50で「b相当」であることから、総合評価は「b」とする。
	【定性的評価として考慮した点】 .

4 県民意識調査の結果

質問文		県民がライフステージや生活スタイルに応じて学び、文化芸術に触れる機会が提供されている。				
調査年度		2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	前年度比
満足度						
満足度	肯定的意見	14. 2%	14. 0%	13. 5%		△0. 5
	十分 (5点)	1. 8%	1. 7%	2. 5%		+0. 8
	おおむね十分 (4点)	12. 4%	12. 3%	11. 0%		△1. 3
	ふつう (3点)	48. 9%	41. 9%	43. 1%		+1. 2
	否定的意見	17. 4%	27. 2%	25. 3%		△1. 9
	やや不十分 (2点)	11. 1%	17. 8%	17. 4%		△0. 4
	不十分 (1点)	6. 3%	9. 4%	7. 9%		△1. 5
	わからない・無回答	19. 5%	16. 9%	18. 2%		+1. 3
	平均点	2. 90	2. 75	2. 79		+0. 04

※端数処理の関係で満足度の割合の合計は100%にならないものもある。

5 主な課題と今後の対応方針

施策の方向性	課題	今後の対応方針
①	○ 障害者に対応した講座の実施数は拡大しているものの、障害特性に応じた配慮やより高い学びの充実を図る上で、内容や運営方法に不安を抱えている市町村がある。 ○ インターネットの普及により、図書館に来なくても情報を得ることができる環境が整備されたことや、人口減少により、図書館における貸出の利用が伸び悩んでいる。 ○ イベントの実施、SNSを活用した情報発信等により、県民の読書活動を推進する施策に取り組んでいるものの、子育てや働き盛りの世代を中心に、読書時間の確保が困難な傾向にある。	○ 各市町村と連携し、障害者の生涯学習を支援する人材の育成に努める。また、福祉関係等との連携によるネットワークを構築し、継続的な取組を支援する。さらに、オンラインや出前講座など、移動や参加に困難を抱えている層にもアクセス可能な仕組みを整える。 ○ 図書館利用の促進と読書活動推進のための広報を行うとともに、市町村立図書館や学校図書館に対して、読書ニーズや先進的な取組についての情報収集と情報提供を継続し、全県の図書館活性化や読書推進を図っていく。 ○ 「第4次秋田県読書活動推進基本計画」の策定に当たり、外部有識者や関係団体等の意見も取り入れながら、それぞれのライフステージに応じて読書に親しむ環境づくりの推進に向けた取組を検討する。
②	○ 県民ニーズに対応した特別展を実施するなど博物館施設の利用者数は順調に推移しているが、身体的な理由で来館できない方へのアピールについては、十分とはいえない。 ○ 縄文遺跡群や民俗芸能、郷土食など本県の文化財の魅力を発信しているものの、地域住民の気運の盛り上げや保存と活用の相乗効果を図る取組が不十分である。	○ 学校や企業、団体等との連携をすすめるとともに、メタバースをはじめとした新たな利用方法をアピールし、全ての人に利用機会を提供していく。 ○ 秋田県文化財保存活用大綱に基づき、観光部門や地域づくり部門、学校教育等との連携をさらに進めることで、地域住民の文化財を継承しようという気運を盛り上げ、保存と活用の相乗効果を図る取組を推進する。

6 政策評価委員会の意見

自己評価「b」をもって妥当とする。
